

2027年国際園芸博覧会  
サステナビリティコミュニケーション・  
エンゲージメント計画



2025年3月

公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会

# 目次

1	はじめに.....	1
1.1	目的.....	1
1.2	対象者.....	1
1.3	メッセージ.....	2
1.4	発信方法.....	2
1.5	メディア.....	2
2	実施計画.....	3
2.1	アクション.....	3
2.2	ガントチャート.....	9
3	評価.....	10

# 1 はじめに

公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会（以下「協会」という。）は、2027年国際園芸博覧会（以下「本園芸博」という。）の開催に必要な事業及びその方針を示した「2027年国際園芸博覧会基本計画（以下「基本計画」という。）」を2023年1月に策定し、本園芸博のテーマを「幸せを創る明日の風景」としている。

また、国際園芸家協会（以下「AIPH」という。）の規則等に基づき、サステナブルな国際園芸博覧会を実現するため、基本方針や目標等を定めた「サステナビリティ戦略（以下「戦略」という。）」と、戦略を実現するためのアクションや実施スケジュール等を定めた「サステナビリティ実施計画」を2024年3月に策定し、AIPHに提出した。

協会は、基本計画や戦略、実施計画等で検討した内容を踏まえ、「サステナビリティコミュニケーション・エンゲージメント計画（以下「C&E計画」という。）」を策定する。

なお、協会では、環境や人権、労働等の専門家で構成する「持続可能性有識者委員会」において、サステナビリティ戦略、実施計画、教育計画、C&E計画等の検討を行った。有識者委員会の資料については、協会のウェブサイト（<https://expo2027yokohama.or.jp/>）で公表している。

C&E計画の策定に当たり、AIPHの要求事項である、C&E計画の目的、対象者、AIPHが特に重視する対象者に対するアクション、メッセージ、発信方法、メディアについて、以下の通り記載する。

## 1.1 目的

C&E計画は、様々なメディアでの情報発信と双方向のコミュニケーション等により、本園芸博のテーマやサステナビリティに関するメッセージを来場者や市民・地域社会等の対象者に発信することを目的とする。

## 1.2 対象者

C&E計画では、サステナビリティ実施計画で設定した、本園芸博の成功に重要な役割を果たすステークホルダーである、「来場者」、「出展者等」、「ボランティア」、「市民・地域社会」、「NPO・NGO」、「事業者」、「有識者等」、「政府・自治体」、「協会職員・運営スタッフ等」の9つから対象者を設定する。

AIPHが特に重視する3つの対象者である、「来場者」、「開催地の市民・国民」、「国際的なオーディエンス」に対しては、以下のようなアクションを実施する。なお、「開催地の市民・国民」、「国際的なオーディエンス」は、対象者のうち、「市民・地域社会」が該当する。

「来場者」に対しては、公式ウェブサイトやSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）等での情報発信、公式マスコットキャラクターの活用等のアクションを実施する。

「開催地の市民・国民」に対しては、開催1000日前イベントの実施、全国都市緑化フェア等のイベントとの連携、市民参加の活動の推進等のアクションを実施する。

「国際的なオーディエンス」に対しては、公式ウェブサイトやSNS等での情報発信、サステナビリティレポートの策定・AIPH報告等のアクションを実施する。

### 1.3 メッセージ

協会は、サステナビリティに関するメッセージとして、本園芸博の開催を通じ、テーマである「幸せを創る明日の風景」を発信する。

本テーマには、一人ひとりが心に「幸福感を深める」ための種を自分の意志で蒔き、これを人や環境との関わりの中で育み、生命力にあふれ、個性豊かに、多彩な花を咲かせること、それが豊かさを深める社会の風景である、という思いを込めている。

### 1.4 発信方法

協会は、基本計画の「第9章 コミュニケーション計画」で整理した、広報活動、プロモーション活動、連携・支援活動、教育活動の4つのコミュニケーション活動を通じて、サステナビリティに関するメッセージを発信する。

### 1.5 メディア

協会は、協会の公式ウェブサイトやSNS等のほか、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等のマスメディアと連携して情報発信する。

## 2 実施計画

### 2.1 アクション

サステナビリティ実施計画では、サステナビリティ戦略で設定した各目標を実現するためのアクションを記載した。このサステナビリティ実施計画に記載した目標・アクションのうち、サステナビリティC&Eに関する目標・アクションと、C&E計画の策定に伴う追加的なアクションを含めた計25のアクションを記載する。

各アクションについて、実施目的、責任者、方法、メッセージ、主な対象者、対象人数、タイムライン（頻度・時期）等を記載する。

記載項目	概要
実施目的	アクションの実施目的
責任者	アクションを実施する責任者
方法	アクションの実施方法
メッセージ	アクションを通じて主な対象者に発信するメッセージ
主な対象者	アクションの主な対象者
対象人数	定義した対象者の人数
タイムライン（頻度・時期）	アクションを実施する頻度や時期等のタイムライン

目標	ID	アクション	実施目的	責任者	方法	メッセージ	主な対象者	対象人数	タイムライン (頻度・時期)
会場計画へのユニバーサルデザインの導入	9-3-1	アクセシビリティ・ガイドラインの策定・推進	全ての人が安全・快適に過ごせるように配慮した計画・整備を行うため、ガイドラインを策定・推進する	協会	アクセシビリティ・ガイドラインを策定し、ガイドラインに沿って計画・整備・運用を実施	全ての人が安全・快適に過ごせるように配慮した園芸博を実現する	(建設・施設管理者) 出展者等、事業者、協会職員・運営スタッフ等	未算定	・検討会の開催、アクセシビリティ・ガイドラインの策定：2024年度 ・準備、開催期間中に、ガイドラインに沿って計画・整備・運用を行う
海外からの参加者（公式参加者）に向けた情報提供	10-1-3	海外からの参加者（公式参加者）への各種規則・ガイドライン等の策定・周知	各種規則・ガイドライン等を策定し、本園芸博の趣旨や、展示・出展・コンペティション、各種申請や手続き、サプライヤー等に関する情報を共有する	協会	公式参加者向けウェブページ等を用いた情報提供	人と自然が共生する未来社会の在り方として「日本モデル」を提示し、本園芸博の開催意義を共有する	出展者等（公式参加者）	70程度の国・国際機関	・各種規則・ガイドライン等の策定・周知：2022年～
サステナビリティレポートの策定・AIPH報告	12-2-1	プレイベント・サステナビリティレポートの策定・AIPH報告	本園芸博で実施するサステナビリティに関連する活動等をレポートに記録し、国際的なレガシーとして継承する	協会	レポートの策定・AIPH報告	レポートの策定・AIPH報告等を通じ、レガシーとして継承する	全てのステークホルダー	未算定	・レポートの策定・AIPH報告：2026年9月まで
サステナビリティレポートの策定・AIPH報告	12-2-2	ポストイベント・サステナビリティレポートの策定・AIPH報告	本園芸博で実施するサステナビリティに関連する活動等をレポートに記録し、国際的なレガシーとして継承する	協会	レポートの策定・AIPH報告	レポートの策定・AIPH報告等を通じ、レガシーとして継承する	全てのステークホルダー	未算定	・レポートの策定・AIPH報告：2027年12月まで
サステナビリティレポートの策定・AIPH報告	12-2-3	サステナビリティ及びレガシーレポートの策定・AIPH報告	本園芸博で実施するサステナビリティに関連する活動等をレポートに記録し、国際的なレガシーとして継承する	協会	レポートの策定・AIPH報告	レポートの策定・AIPH報告等を通じ、レガシーとして継承する	全てのステークホルダー	未算定	・レポートの策定・AIPH報告：2030年9月まで
(追加)	add-0-1	協会職員への研修の実施	協会職員に対して、サステナビリティを含む研修を実施し、意識を向上させる	協会	研修の実施	サステナビリティを含む研修を実施し、意識を向上させる	(建設・施設管理者) 協会職員	未算定	・転入者研修：職員着任時等 ・テーマ別研修：随時
(追加)	add-0-3	公式ウェブサイトでの情報発信	公式ウェブサイト、本園芸博の開催概要や検討状況などについて、海外も含めて情報発信を行う	協会	本園芸博の開催概要や検討状況のほか、事業者等の出展・参加、サステナビリティ等の情報をより充実させ、積極的に情報発信	アクセシビリティやユーザビリティに配慮し、公式ロゴマークのデザインと連動させた、より閲覧しやすいウェブサイトに変更する	全てのステークホルダー	未算定	・公式ウェブサイトでの情報発信を随時実施
(追加)	add-0-4	公式SNSの活用	公式SNSを活用して本園芸博のブランドイメージや認知度の向上、市民との連携促進を図る	協会	公式SNSを活用した情報発信	公式SNSを活用して、本園芸博の認知度の向上と機運醸成に努める	全てのステークホルダー	未算定	・公式SNSを活用した情報発信を随時実施

目標	ID	アクション	実施目的	責任者	方法	メッセージ	主な対象者	対象人数	タイムライン (頻度・時期)
(追加)	add-0-5	公式アンバサダーによる機運醸成	公式アンバサダーと一緒に、本園芸博の機運醸成を図る	協会	公式アンバサダーに記者発表会等のイベントに出席いただき、情報発信	公式アンバサダーと一緒に、本園芸博の機運醸成を図る	全てのステークホルダー	未算定	・公式アンバサダーの就任発表：2023年9月19日 ・公式アンバサダーによる機運醸成：～開催期間
(追加)	add-0-6	公式マスコットキャラクターの活用	「人と地球の自然との、新たな関係を育むコミュニケーター」として、機運醸成に活用する	協会	機運醸成に活用	人と地球の自然との、新たな関係を育むコミュニケーター	全てのステークホルダー	未算定	・マスコットの発表・名前の公募：2024年3月19日 ・マスコットの名前「トウクタウンク」の決定：2024年6月22日 ・マスコットの活用：～開催期間
(追加)	add-0-7	全国都市緑化フェアとの連携	園芸博との関係性が深い全国都市緑化フェアと連携し、協会として出展するなど、本園芸博の機運醸成を図る	協会、政府・自治体	フェアとの連携、出展等	フェアの統一基本理念である「緑ゆたかなまちづくり」に向けて連携を進める	来場者、出展者等、市民・地域社会	仙台フェア来場者数：115万7千人	・仙台フェア：2023年4月26日～6月18日 ・かわさきフェア：2024年10月19日～11月17日 2025年3月22日～4月13日 ・今後のフェアとの連携：～開催期間
(追加)	add-0-8	浜名湖花博2024（20周年記念事業）との連携	AIPHが承認する本園芸博として2004年に開催された浜名湖花博の20周年記念事業と連携し、本園芸博の機運醸成を図る	協会、政府・自治体	浜名湖花博2024での本園芸博の機運醸成	浜名湖花博2024での本園芸博の機運醸成	来場者、出展者等、市民・地域社会	来場者数：約100万人	・今後のフェアとの連携：～開催期間
(追加)	add-0-9	ガーデンネットワーク横浜との連携	横浜市等が毎年開催しているガーデンネットワーク横浜と連携し、本園芸博の機運醸成を図る	協会、政府・自治体	ガーデンネットワーク横浜との連携企画の実施	本園芸博に向けて、花と緑の取組を広げる	来場者、出展者等、市民・地域社会	未算定	・ガーデンネットワーク横浜2024への参加：2024年5月3日～6月9日 ・今後のガーデンネットワーク横浜との連携：～開催期間
(追加)	add-0-10	横浜フラワー&ガーデンフェスティバルとの連携	毎年開催予定の横浜フラワー&ガーデンフェスティバル（以下「横浜フラ」という。）と連携し、本園芸博の機運醸成を図る	協会、事業者、政府・自治体	横浜フラとの連携企画の実施	日本最大級の新しい園芸イベントとして、花き・園芸産業の振興を図る	来場者、出展者等、市民・地域社会	来場者数：約3万5千人	・横浜フラ2024への参加：2024年5月3日～6日 ・今後の横浜フラとの連携：～開催期間

目標	ID	アクション	実施目的	責任者	方法	メッセージ	主な対象者	対象人数	タイムライン (頻度・時期)
(追加)	add-0-11	開催1000日前イベントの実施	国内外の多くの方に参加・参画いただき、一人ひとりの市民が多様に参加・参画し、ともに創り上げる園芸博を目指していくためのキックオフとする	協会	ワークショップやステージイベント、展示等のプログラムの実施	市民参加のキックオフ！ “幸せを創る明日の風景”を共に描く2days	来場者、出展者等、市民・地域社会	来場者数：約3万人	・イベント実施：2024年6月22～23日
(追加)	add-0-12	県立横浜瀬谷高等学校等による「フラワーロードプロジェクト」との連携	横浜瀬谷高校の生徒等が、市民参加の活動として関係団体と協力し、瀬谷駅前から本園芸博会場までの道路1.5キロメートルに花を植栽する「フラワーロードプロジェクト」を実施し、機運を醸成する	市民・地域社会	瀬谷駅前から本園芸博会場までの道路に花を植栽	瀬谷に花を咲かせよう！ GREEN×EXPO 2027につなげよう！	市民・地域社会（学生・教職員等）	第5回プロジェクト参加者：約250人	・第5回プロジェクト：2023年12月10日
(追加)	add-0-13	県立農業高校との共創プロジェクト「GREEN LEADERSHIP CLUB」の推進	花や緑、農・食の未来を牽引する次世代のリーダーの育成を目指し、本園芸博について学び、積極的に参加できる場として活動する	協会、市民・地域社会	本園芸博のテーマなどを学び、企画案を考えるなどの活動を実施	神奈川県立の農業高校5校の生徒による未来のための共創プロジェクト	市民・地域社会（学生・教職員等）	高校生メンバー：49人	・CLUBの立ち上げ：2023年12月8日 ・プレゼン発表会の開催：2024年6月17日 ・今後の活動：～開催期間
(追加)	add-0-14	ヨコハマ未来創造会議との連携	本園芸博の開催を契機に、次世代を担う若者が環境にやさしい生活や社会を目指して議論し、アクションを起こすきっかけをつくり、GREEN×EXPO 2027での発信と新たなグリーン社会の実現を目指す	政府・自治体	ヨコハマ未来創造会議との連携	次世代を担う若者とともにGREEN×EXPO 2027を創り、その感性とアイデアを未来の横浜に繋げる	市民・地域社会（学生・若者世代等）	ヨコハマ未来創造会議メンバー：約120人	・キックオフイベントの開催：2023年12月10日 ・本格始動フラッグアップイベントの開催：2024年7月30日 ・中間発表会の開催：2024年10月8日 ・ワークショップの開催：月1回
(追加)	add-0-15	大学共創フォーラムの開催	本園芸博の目指すビジョンや共創の姿を全国の大学関係者と共有し、出展等の大学の参加・連携、学生の参加等について、理解いただく	協会	オンラインによるフォーラムの開催	フォーラムを契機として、出展等の大学の参加・連携、学生の参加等につなげる	市民・地域社会（学生・教職員等）	未算定	・フォーラムの開催：2024年5月31日、6月5日



目標	ID	アクション	実施目的	責任者	方法	メッセージ	主な対象者	対象人数	タイムライン (頻度・時期)
(追加)	add-0-16	教育プログラム コンセプトブックの活用	本園芸博が児童・生徒の探究学習の場として、相応しい場であることの認識を深め、今後の教育旅行・体験学習の場として選択される	協会	国内各教育委員会への発信、公式ウェブサイトへの掲載、その他PR活動などにより学校現場での活用を促進	本園芸博は、子どもたちの自ら考える力や想像力を育み、新たな価値観、行動変容のきっかけとなることを目指す	来場者、市民・地域社会（児童・生徒・教職員等）	未算定	・コンセプトブックの公表：2024年11月 ・コンセプトブックの活用：～開催期間
(追加)	add-0-17	「応援メッセージ付き公式ロゴマーク」を使った市民参加の活動の推進	市民（個人、団体、教育機関等）の活動で利用できる「応援メッセージ付き公式ロゴマーク」を作成することで、市民の博覧会への参加意識を高める	協会	市民活動の募集開始：2024年7月～	応援の輪を広げ、市民との一体感を高める	市民・地域社会、NPO・NGO、事業者	未算定	・市民活動の募集開始：2024年7月～
(追加)	add-0-18	ボランティア等の市民参加の推進	園芸博ならではのボランティア活動を通じて、環境に対する意識の向上を促す	協会	ボランティア等の市民参加の推進	「市民と共に創るGREEN×EXPO」を体現すると共に、本園芸博後にも継承されるレガシーを市民とともに形成していくことを目指す	ボランティア、市民・地域社会、NPO・NGO	ボランティア参加者想定：8,000人	・ボランティアの募集：2025年度～ ・開催期間にボランティアによる会場運営を実施
(追加)	add-0-20	公式参加者（国・国際機関）の展覧を通じた情報発信	世界各国や国際機関等による展覧により、世界の多様な園芸文化、食農文化、環境施策等を発信する	協会、出展者等（公式参加者）	公式参加者の出展やナショナルデー・スペシャルデー等を通じた情報発信	各国・組織の様々な分野での技術や文化、知識を披露し、花き・造園産業、食や農、環境に係る取組等の発展に寄与する	来場者	有料来場者数：1,000万人以上	・開催期間に公式参加者の展覧を通じた情報発信を実施
(追加)	add-0-21	花・緑展覧を通じた情報発信	出展者の庭園作品や生産品を展示し、コンペティションにより技術や魅力を世界へ発信する	協会、出展者等	花・緑展覧やコンペティション等を通じた情報発信	日本の園芸の技術や魅力を世界へ発信する	来場者	有料来場者数：1,000万人以上	・開催期間に花・緑展覧を通じた情報発信を実施
(追加)	add-0-22	Village 展覧を通じた情報発信	GREENの力と産業活動が融合した姿を示し、本園芸博のテーマである「幸せを創る明日の風景」を創出する	協会、出展者等	Village 展覧を通じた情報発信	GREENの力と産業活動が融合した姿を示す	来場者	有料来場者数：1,000万人以上	・開催期間にVillage 展覧を通じた情報発信を実施

各アクションについて、どのステークホルダーを主な対象者としているかを明確にするため、表で記載する。前述したアクションの表の「主な対象者」に記載した対象者について、以下の表に「○」を記載している。

ID	アクション	主な対象者								
		来場者	出展者等	ボランティア	市民・地域社会	NPO・NGO	事業者	有識者等	政府・自治体	協会職員・運営スタッフ等
9-3-1	アクセシビリティ・ガイドラインの策定・推進	—	○	—	—	—	○	—	—	○
10-1-3	海外からの参加者（公式参加者）への各種規則・ガイドライン等の策定・周知	—	○	—	—	—	—	—	—	—
12-2-1	プレイベント・サステナビリティレポートの策定・AIPH 報告	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12-2-2	ポストイベント・サステナビリティレポートの策定・AIPH 報告	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12-2-3	サステナビリティ及びレガシーレポートの策定・AIPH 報告	○	○	○	○	○	○	○	○	○
add-0-1	協会職員への研修の実施	—	—	—	—	—	—	—	—	○
add-0-3	公式ウェブサイトでの情報発信	○	○	○	○	○	○	○	○	○
add-0-4	公式 SNS の活用	○	○	○	○	○	○	○	○	○
add-0-5	公式アンバサダーによる機運醸成	○	○	○	○	○	○	○	○	○
add-0-6	公式マスコットキャラクターの活用	○	○	○	○	○	○	○	○	○
add-0-7	全国都市緑化フェアとの連携	○	○	—	○	—	—	—	—	—
add-0-8	浜名湖花博 2024（20 周年記念事業）との連携	○	○	—	○	—	—	—	—	—
add-0-9	ガーデンネックレス横浜との連携	○	○	—	○	—	—	—	—	—
add-0-10	横浜フラワー＆ガーデンフェスティバルとの連携	○	○	—	○	—	—	—	—	—
add-0-11	開催 1000 日前イベントの実施	○	○	—	○	—	—	—	—	—
add-0-12	県立横浜瀬谷高等学校等による「フラワーロードプロジェクト」との連携	—	—	—	○	—	—	—	—	—
add-0-13	県立農業高校との共創プロジェクト「GREEN LEADERSHIP CLUB」の推進	—	—	—	○	—	—	—	—	—
add-0-14	ヨコハマ未来創造会議との連携	—	—	—	○	—	—	—	—	—
add-0-15	大学共創フォーラムの開催	—	—	—	○	—	—	—	—	—
add-0-16	教育プログラム コンセプトブックの活用	○	—	—	○	—	—	—	—	—
add-0-17	「応援メッセージ付き公式ロゴマーク」を使った市民参加の活動の推進	—	—	—	○	○	○	—	—	—
add-0-18	ボランティア等の市民参加の推進	—	—	○	○	○	—	—	—	—
add-0-20	公式参加者（国・国際機関）の出展を通じた情報発信	○	—	—	—	—	—	—	—	—
add-0-21	花・緑出展を通じた情報発信	○	—	—	—	—	—	—	—	—
add-0-22	Village 出展を通じた情報発信	○	—	—	—	—	—	—	—	—

## 2.2 ガントチャート

「2.1 アクション」で設定した、各アクションの実施スケジュールをガントチャートで記載する。

ID	アクション	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
9-3-1	アクセシビリティ・ガイドラインの策定・推進						
10-1-3	海外からの参加者（公式参加者）への各種規則 ・ガイドライン等の策定・周知						
12-2-1	プレイベント・サステナビリティレポートの策定・AIPH 報告						
12-2-2	ポストイベント・サステナビリティレポートの策定・ AIPH 報告						
12-2-3	サステナビリティ及びレガシーレポートの策定・AIPH 報告						
add-0-1	協会職員への研修の実施						
add-0-3	公式ウェブサイトでの情報発信						
add-0-4	公式 SNS の活用						
add-0-5	公式アンバサダーによる機運醸成						
add-0-6	公式マスコットキャラクターの活用						
add-0-7	全国都市緑化フェアとの連携						
add-0-8	浜名湖花博 2024（20 周年記念事業）との連携						
add-0-9	ガーデンネットワーク横浜との連携						
add-0-10	横浜フラワー＆ガーデンフェスティバルとの連携						
add-0-11	開催 1000 日前イベントの実施						
add-0-12	県立横浜瀬谷高等学校等による 「フラワーロードプロジェクト」との連携						
add-0-13	県立農業高校との共創プロジェクト 「GREEN LEADERSHIP CLUB」の推進						
add-0-14	ヨコハマ未来創造会議との連携						
add-0-15	大学共創フォーラムの開催						
add-0-16	教育プログラム コンセプトブックの活用						
add-0-17	「応援メッセージ付き公式ロゴマーク」 を使った市民参加の活動の推進						
add-0-18	ボランティア等の市民参加の推進						
add-0-20	公式参加者（国・国際機関）の出展を通じた情報発信						
add-0-21	花・緑出展を通じた情報発信						
add-0-22	Village 出展を通じた情報発信						

### 3 評価

「2 実施計画」に記載したアクションのうち、C&E 計画の策定時点で実施したアクションについて、日程、実施人数、振り返り（良い点、改善点）の評価を記載する。

記載項目	概要
日程	アクションを実施した日程
実施人数	アクションを実施した対象人数
振り返り（良い点、改善点）	アクションを実施した振り返り（良い点、改善点）

ID	アクション	日程	実施人数	振り返り（良い点、改善点）
9-3-1	アクセシビリティ・ガイドラインの策定・推進	・検討会の開催：2024 年度	未算定	・検討会を開催し、学識経験者や当事者等の意見を踏まえたガイドラインの検討を進めている
10-1-3	海外からの参加者（公式参加者）への各種規則・ガイドライン等の策定・周知	・一般規則の策定：2022 年 11 月 BIE 承認 ・特別規則の策定：2023 年 6 月以降 BIE 承認	未算定	・各種規則・ガイドライン等を策定・周知し、海外からの参加者（公式参加者）に適切に情報提供できている
add-0-1	協会職員への研修の実施	・転入者研修：職員着任時	未算定	・協会の転入者に対して、サステナビリティを含む研修を実施した
add-0-3	公式ウェブサイトでの情報発信	・公式ウェブサイトでの情報発信を随時実施	未算定	・公式ウェブサイトで、本園芸博の開催概要や検討状況のほか、事業者等の出展・参加、サステナビリティ等の情報を海外も含めて発信 ・更なる情報の充実・発信に努める
add-0-4	公式 SNS の活用	・公式 SNS を活用した情報発信を随時実施	公式 SNS（Instagram）のフォロワー数：約 1.3 万人（2025 年 2 月 28 日時点）	・公式 SNS を活用して、イベント情報や協会の取組を発信できている ・更なる情報の充実・発信に努める
add-0-5	公式アンバサダーによる機運醸成	・公式アンバサダーの就任発表：2023 年 9 月 19 日 ・公式アンバサダーによる機運醸成：～開催期間	未算定	・これからの未来を生きる世代の代表として幅広い世代から支持されている俳優の芦田愛菜（あしだ まな）さんが公式アンバサダーとして就任

ID	アクション	日程	実施人数	振り返り（良い点、改善点）
add-0-6	公式マスコット キャラクターの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスコットの発表・名前の公募：2024年3月19日</li> <li>・マスコットの名前「トウクトウク」の決定：2024年6月22日</li> <li>・マスコットの活用：～開催期間</li> </ul>	名前応募： 6,076件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名前の公募に6,076件が集まり、多数のメディアで紹介されるなど、機運醸成に活用できている</li> <li>・今後、更なる機運醸成に活用する</li> </ul>
add-0-7	全国都市緑化フェアとの連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙台フェアとの連携・出展：2023年4月26日～6月18日</li> <li>・かわさきフェアとの連携・出展：2024年10月19日～11月17日</li> </ul>	仙台フェア来場者数： 115万7千人	・フェアと連携、出展し、本園芸博の機運醸成を図った
add-0-8	浜名湖花博2024（20周年記念事業）との連携	・浜名湖花博2024との連携：2024年3月23日～6月16日	来場者数： 約100万人	・ステージイベントに参加し、本園芸博の機運醸成を図った
add-0-9	ガーデンネックレス横浜との連携	・ガーデンネックレス横浜2024への参加：2024年5月3日～6月9日	未算定	・ガーデンネックレス横浜で連携企画を実施するなど、本園芸博の機運醸成を図った
add-0-10	横浜フラワー&ガーデンフェスティバルとの連携	・横フラ2024への参加：2024年5月3日～6日	来場者数： 約3万5千人	・横フラで連携企画を実施するなど、本園芸博の機運醸成を図った
add-0-11	開催1000日前イベントの実施	・イベント実施：2024年6月22-23日	来場者数： 約3万人	・約3万人に来場いただき、本園芸博の機運醸成を図った
add-0-12	県立横浜瀬谷高等学校等による「フラワーロードプロジェクト」との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5回プロジェクト：2023年12月10日</li> <li>・開催1000日前記者発表会での活動の紹介：2024年6月22日</li> </ul>	第5回プロジェクト：約250人	・地元の高校等による市民参加の活動を通じて、機運醸成を図った
add-0-13	県立農業高校との共創プロジェクト「GREEN LEADERSHIP CLUB」の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CLUBの立ち上げ：2023年12月8日</li> <li>・プレゼン発表会の開催：2024年6月17日</li> <li>・かわさきフェアとの連携・出展：2024年10月19日～11月17日</li> </ul>	高校生メンバー：49人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校の生徒によるプレゼンテーション、協会の幹部や職員との意見交換ができた</li> <li>・フェアと連携、出展し、本園芸博の機運醸成を図った</li> </ul>

ID	アクション	日程	実施人数	振り返り（良い点、改善点）
add-0-14	ヨコハマ未来創造会議との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キックオフイベントの開催：2023年12月10日</li> <li>・本格始動フラッグアップイベントの開催：2024年7月30日</li> <li>・中間発表会の開催：2024年10月8日</li> <li>・ワークショップの開催：月1回</li> </ul>	ヨコハマ未来創造会議メンバー：約120人	・若者たちが主体的・自発的に分科会活動に取り組んでおり、応援の輪が広がっている
add-0-15	大学共創フォーラムの開催	・フォーラムの開催：2024年5月31日、6月5日	参加者数：29大学、48人	・フォーラムの開催を通じて、大学の参加・連携等について、ご理解いただいた
add-0-16	教育プログラム コンセプトブックの活用	・コンセプトブックの公表：2024年11月	未算定	・コンセプトブックを公表し、児童・生徒の探究学習の機会を提供できた
add-0-17	「応援メッセージ付き公式ロゴマーク」を使った市民参加の活動の推進	・市民活動の募集開始：2024年7月～	登録件数：65件 (2025年2月28日時点)	・市民活動による応援の輪を広げ、市民との一体感を高められている